

梅雨も明け、青空に鮮やかな入道雲が浮かぶ季節となりました。みなさま、暑い日々が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

新年度の立ち上げから息をつく間もなく日々が過ぎ、今年度第1号の発行が8月となってしまいました、大変申し訳ありません。現在医局では、日々の診療業務はもちろんのこと、学会発表や研究の準備、研究活動など、それぞれの目標に向かって活発に動いています。今月号では、それぞれの近況報告や新しく加わった先生方の声など、医局の「今」をお届けします。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

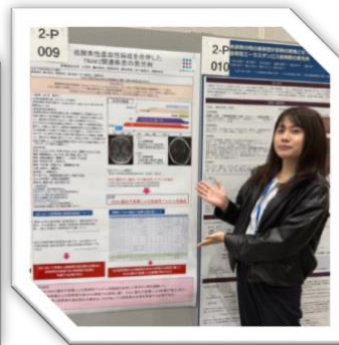
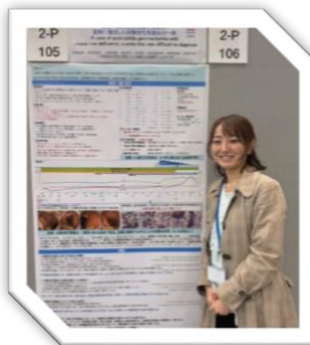
～4-7月の医局行事報告～

発表された先生方、お疲れ様でした！！

4月17-19日 第129回日本小児科学会学術集会

4月17日から19日にかけて第129回日本小児科学会学術集会が山口県下関市で行われました。

山口定信先生が～Crohn病に合併した血栓性静脈炎および高安動脈炎の6歳男児例～という演題で口演発表を、守田弘美先生が～重度の鉄欠乏性貧血で発症し、診断に難渋した好酸球性胃腸炎～という演題で、池上朋未先生が～北九州市の教育現場におけるプレコンセプションケアの認識と現状－アンケート調査より～という演題で、藤本菜生先生が～低酸素性虚血性脳症を合併した TRAK1 関連疾患の男児例～という演題でポスター発表をされました。



4月24-27日 Pediatric Academic Societies 2026 (アメリカ、ボストン)

4月24日から27日にかけて Pediatric Academic Societies 2026 がボストンで行われました。

高橋光先生が "Hematologic Suppression in Preterm Infants Born to Mothers With Systemic Lupus Erythematosus: A Matched Case-Control Study" という演題で口演発表を、

深野玲司教授が "Efficacy of digital PCR for the determination of NUDT15 diplotype with pediatric acute lymphoblastic leukemia" という演題で、眞鍋舜彦先生が "Earlier Treatment Requirement Is Associated With a More Severe Course in Retinopathy of Prematurity" という演題でポスター発表をされました。



5月28-30日 第48回血栓止血学会学術集会（神奈川県小田原市）

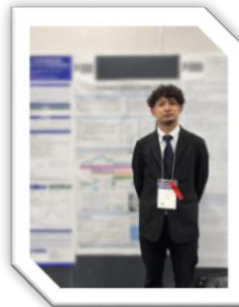
5月28日から30日にかけて第48回血栓止血学会学術集会が神奈川県小田原市で行われました。

白山理恵先生が会長企画シンポジウム「女性と出血サミットー女性の出血を可視化するー」で

口演発表を、**宮地秀途先生**が「母が確定保因者の説明を

うけたが、関節症発症まで血友病Aの診断に至らなかった

10歳男児例」という演題でポスター発表をされました。



～8月開催予定の学会～

学会によっては学生参加枠もありますので、興味のある学生さんはお声かけ下さい★

8月23日 第73回九州学校保健学会（北九州市）

当教室の**深野玲司教授**が大会長を務めます。「子どもの“サイン”を支援へ」をテーマに、学校・医療・地域の連携について多角的に考えるプログラムをご用意しております。

小倉 AIM ビルとオンラインのハイブリッド開催となります。医師をはじめ、

学校保健に関心のある多職種の皆様に参加・交流できる機会ですので、

ぜひご参加ください。



～医局員からのメッセージ～

片山あかり先生（2024年卒）

医師3年目の片山あかりと申します。産業医科大学を2024年に卒業し、長崎医療センターにて2年間の初期研修を修了後、このたび産業医科大学病院小児科に入局いたしました。研修の2年間では、成人疾患を含めた多様な症例を経験させていただき、試行錯誤しながらも成長することができたと感じております。

今後はこれまでの経験を生かし、専門性を高めながら、小児科医としてさらなる成長に努めてまいります。未熟ではございますが、子どもたちとそのご家族に安心していただける医師を目指し、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

石川晋太郎先生（2024年卒）

4月より産業医科大学病院小児科に入局いたしました、修練医1年目の石川晋太郎と申します。産業医科大学卒業後、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで2年間の初期研修を行い、このたびご縁をいただきました。自身が超未熟児として生まれた経験から次第に小児医療に関心を持つようになりました。この経験は他にはない強みと考え、診療に活かしていきたいと思っております。

日々丁寧に向き合い、何事にも全身全霊で学び、患者さんやご家族に安心していただける存在を目指してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

小児科通信に関してご意見や感想があれば眞鍋（mnbtoshi7663@med.uoeh-u.ac.jp）までご連絡ください。 ～次号もお楽しみに～